

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164

前洛友会会長・京都大学名誉教授、
大谷泰之先生は去る平成12年1月5
日ご逝去されました。ここに謹んで
ご冥福をお祈り申し上げます。

大谷泰之先生の思い出

佐々木 正 (昭13年卒)

大谷泰之先生は我々同級生の「同期の桜」であった。何事も我々をリードし、よく面倒を見てくれた。皆から敬愛の的であった。それが実も結ばぬうちに散ってし

まったことは、とにかく大変残念で仕方がない。大谷先生と小生は、とかく不思議な「縁」というものを感じる間柄であった。



大谷泰之先生のご略歴

- 大正2年3月16日京都市に生まれる
- 京都府立一中→三高→京大
- 昭和13年3月 京都帝国大学工学部電気工学科卒業
- 同大学院・加藤信義先生御指導下、光電変換特に赤外線検出器の研究
- 昭和14年9月 京都帝国大学助教
- 昭和19年10月 京都大学教授
- 昭和31年 有線通信講座担任
- 昭和31年 電気応用講座に担任変え
- 昭和51年3月 定年退官・名誉教授
- 昭和51年4月 - 54年3月 福山大学教授
- 昭和54年4月 - 61年3月 福井工業高等専門学校校長
- 昭和60年度 国立高等専門学校協会副会長
- 昭和61年4月 勲2等瑞宝章
- 昭和48年6月23日 近畿地方發明センター理事
- 昭和52年3月22日 同上副理事長
- 平成元年3月24日 同上理事長
- 平成9年6月13日 同上顧問
- 昭和27年11月 - 45年2月 郵政省電波技術審議会第3部会専門委員
- 昭和45年2月 郵政省電波技術審議会第1部会、第3部会、第4部会担当
- 昭和49年度 - 昭和52年度 郵政省電波技術審議会第3部会長
- 昭和54年6月1日 郵政大臣表彰
- 昭和39年5月 - 41年4月 照明学会副会長
- 昭和44年5月 - 46年6月 電気学会副会長
- 昭和46年10月 - 58年9月 国際照明委員会可視光源技術委員会委員長
- 昭和45年 大阪万国博覧会屋外照明施設計画委員会委員長
- 昭和48年5月 - 50年4月 照明学会会長
- 昭和54年4月 国際照明委員会京都大会実行委員長
- 昭和60年 筑波国際科学技術博覧会会場照明計画・設計委員会委員長
- 昭和44年2月 - 52年8月 工業技術院国際標準研究連絡会議照明分科会会長
- 昭和52年11月 - 53年3月 工業技術院国際計量研究連絡委員会測光標準分科会会長

5年前、我々同期は北海道でクラス会をしたことがある。先生は他にも予定がありお忙しい中、その会に参加され、一同、同期の故松尾三郎君の招待で、当時彼が経営していた情報大学の見学を兼ねて寮の食堂を借り夜宴をはった。話しに花も咲き、久しぶりの会合を皆で楽しんだ。その時突然、大谷先生が私に寄りかかり、もたれて来た。ハッと顔を見ると蒼白。これは大変と抱きかかえ、救急車を呼び病院に担ぎ込んだ。病院の緊急の手当てもよく、翌朝には元氣な顔で退院され、先生は別に用事があるというので、別々に帰路についた。

どうも過労の状況でビールを飲んだのが悪かったのではないかと勝手に推測していたが、帰途飛行機の中、以前、洛友会で天橋立へ旅行したことを思い出した。その時は、故松田先生が石の階段を登る途中で失神、救急車で病院へ運んだことがあった。それ以来、松

田先生は体調を崩され、不帰の客となられた。大谷先生もこれが動機で悪い影響が出なければよいがと気になって仕方がなかった。次の年は北陸能登でクラス会が行われた。大谷先生は奥様に付き添って頂いて参加されたので、前年の失神がこたえて命を縮められたのではないかと、心中気になりながら旅行をしたが、無事に予定を終えられ一安心したことを覚えている。ところが3年前、故松尾三郎君が事故で入院の報を聞き、早速秘書と連絡をとり見舞いに行くことを申し出たところ、本人は病院を抜け出し、自分の会社の社長室で小生に会うという。心配しながら彼の部屋にお見舞いしたのであるが、彼は物も言えず、筆談でのコミュニケーションとなった。すると突然、彼はメモへ「大谷君は元氣か。」と書き付けたのである。「しばらく会っていいないのでよくわからないが、メモを渡すべく、

近く会うから。」と言って別れたのだが、これが故松尾三郎君と私の最後の別れとなった。

この後、松尾君は亡くなられ、私は一日も早く彼のメッセージを大谷先生に伝えようと思いついて、京都へ行くチャンスが失われていた。しばらくして、大谷先生の不調を伺い、昨年退院されてから御家へお見舞いし、応接でついに松尾君のメッセージを伝えることができた。その時は先生の早期快復を申し上げ退去したが、これが大谷先生との最後の面接となった。

人の縁とは面白いものである。松尾君 - 大谷先生 - 小生と、透明な紐でつながっているような感じ、これを一度解明したいと思っている。きっと今もどこかでつながっている大谷先生のご冥福を心よりお祈りする。

大谷泰之先生のご逝去を悼んで

水野秀夫

元 松下電子工業研究所

元 日本照明委員会

光源技術委員会幹事

日本照明委員会は1971年のCIE (国際照明委員会) パルセロナ大会において、日本が可視光源技術委員会の幹事国となったのを受けて、照明学会の会長も務められた大谷泰之先生に委員長をお願いし、私が幹事を引き受けることになりました。

大谷先生はこの後、83年のアムステルダム大会に至るまで、委員長を12年間に亘って勤められ、世界の研究報告を取り纏めて光源の進歩、開発状況に関する報告書を作成されました。この間各国委員において、意見や考え方の相違があり、時には激しい論争もありましたが、それを乗り越えて、光源技術委員会としての報告書を取り纏められたのは、先生の優れた識見のみならず、円満なお人柄があつたればこそ可能になったのだと思います。これらの報告書は各国から高い評価を受け、その一部は国際照明委員会の出版物ともなりました。

私は先生と共に歩んだ12年間を振り返って、この偉大な先達を偲ばせて頂きたいと存じます。

1. 74年 ロンドン会議

これは可視光源技術委員会の第一回会議で、日本からは大谷先生、

松下の水野、岩崎電気の斉藤さん、東芝の染谷さんが出席しました。

後でロンドンでは日本の代表団は大学教授を中心に本来競争相手である筈のメーカーの技術者が一つにまとまっていたと驚かれ、話題になったそうです。これも大谷先生のお人柄と初めての国際会議で全員が一致協力して当たったのが、外人にも深い感銘を与えたのでしょう。

2. 75年9月 国際照明委員会第18回大会

この大会は、ロンドン大学で開催されました。可視光源技術委員会は、13ヶ国から18名の出席者が集まり、大谷先生の司会のもとに討議が行われました。会議では、日本から提出した新光源の特性並びにその開発状況に関する報告書が高い評価を受けました。しかし、先生も私も国際会議でChairman Secretaryを務めるのは始めてでしたから、二人ともハラハラ、ドキドキでした。

3. 1977年9月、ワルシャワ会議

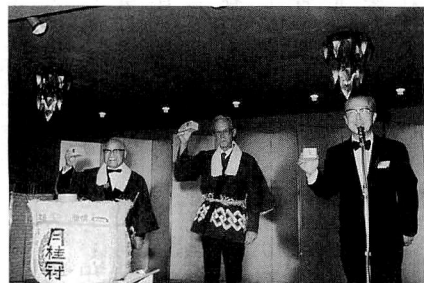
可視光源技術委員会の第二回会議は、ポーランドのKosakowski会長の好意でワルシャワで開催されました。9ヶ国から12名の委員が出席しました。この会議で日本からの特殊用途の新しい光源、省エネ

ギー光源に関する報告書が討議されました。

またランプの寿命その他の主な特性の定義を国際電気規格会議第34技術委員会 (ランプ及び照明器具委員会) IEC-TC 34 Kosakの協力を得て、第一次案が提出され、討議されました。

4. 79年8月 国際照明委員会第19回大会

この大会は京都国際会館で開催され、30ヶ国から91名と多数の参加者を迎えた盛大なものとなりました。大谷先生は光源技術委員会の委員長としての役目とともに、大会の実行委員長として、大会の運営に関する膨大な準備作業を進められました。写真は開会式後のレセプションにおける、大谷先生、グースCIE会長 (中央)、進藤J-ICIE会長による乾杯の場面です。閉会式ではグース会長から口を極めた謝辞があり、さらに9月末感謝の手紙が大谷先生宛に送られて来て先生もいたく感激して



居られました。この京都大会では、我が国の若い照明技術者が国際会議の雰囲気を経験し、諸外国の著名な研究者とも交流の機会を得たものと思われます。

大谷先生はこの京都大会の功績により、1988年9月の国際照明委員会創立75周年記念式典に於て名誉あるAWARDS賞を受けられました。

可視光源技術委員会では、ワルシャワ会議で討議された、特殊光源、省エネレーザー光源の報告が討議されました。また可視光源技術委員会における日本の実績が認められ、紫外、赤外光源を加えた光源技術委員会とすることが決定されました。

5. 80年 IEC-TC 34との合同会議

パリで開催された会議に先生と私が出席し、ロンドン会議以降の懸案であったランプの特性の定義案が討議され、我々の案が基本的に了承され、その主なものは国際照明用語集に取入れることが了

承されました。この問題では一時IEC-TC 34部会側の誤解を招き、国際協力の難しさ、言葉の障壁を痛感させられました。大谷先生の粘り強いご努力で我々の案が、IEC側に承認されたばかりでなく、国際照明用語集に取り入れられるという思いがけない好結果を生みました。

6. 83年9月、国際照明委員会20回大会

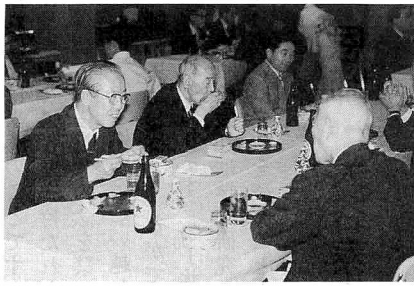
この大会はアムステルダムで開催されました。光源技術委員会では、可視光源、紫外、赤外光源についての報告後、国際照明委員会のKosakowski副会長より大谷先生に対する異例の送別謝辞があり、先生もいたく感激しておられました。私達も先生の永年のご苦勞が報われたと喜びました。また会議後、光源技術委員会の次の委員長となられた van de Weijer氏、IEC-TC 34 Aの Jansson氏から先生のご苦勞に対する感謝の招宴があつたのも、よき思い出となりました。

大谷泰之先生を偲んで

板谷良平 (昭28年卒)

昭和30年7月1日付で京都大学工学部助手に採用され、大谷先生の講座の最初の助手として先生をお助けすると同時にご指導を戴くようになつてから今日まで、先生のお側近くにお仕えした者として、先生と共に過ごした日々を振り返り、先生のお人柄とご業績を紹介して、先生のご冥福をお祈りすることと致します。

現役時代は、教室の廊下の足音で直ぐに大谷先生と判るくらい、力強く歩いておられたのに、平成3年冬に松田長三郎先生がお亡く



昭53年、洛友会中国支部総会時のスナップ

なりになり、そのお葬式を取り仕切られた後から、腰を痛められ、やがて杖を使われるようになりました。昔の様な早足ではなくなり、張りのある声で広い話題を楽しく聞かせて下さいました。その後、時々貧血のような症状で、お倒れになることがありましたが、直ぐにお元気になるし、また、軽い脳梗塞を患われたのに、全く後遺症が無かったとのことで、先生の強運に感服しておりました。即ち普段は大変お元気なのに、時々病院に入院されて居られたのです。しかし、軽い脳出血を患われた後は、ややお話しが聞き取り難くなり、往年の、人を魅了するお話しが聞けなくなりました。昨年12月中旬に病院にお見舞いに伺った時が先生とお話しができた最後となりました。大晦日の早朝に先生の奥様から意識の混濁が起きたとお電話を戴き、病院に駆け付けた時には、酸素マスクをしておられて、もうお話しは

できず、1月4日にお見舞いに伺った時には、肺炎を併発しておられ、5日に遂にご他界になりました。もう直ぐ米寿の祝いと、門下生が準備に掛かるうとしていた矢先の訃報で、残念の極みです。私の今日があるのは、将に、大谷先生に拾われたことに始まったと言えます。昭和28年3月に卒業し、日本電気に就職したものの、入社式で始めて、配属先の大津工場が分離して新日本電気になると聞かされて、会社を辞める決意を固め、故林重憲先生にお願いして電気教室の助手に採用して戴ける手筈も整い、満1年が経つのを待って、辞表を出したのに認められずに慰留され、止む無く、もう1年辛抱してその間に留学生試験でも受けて、日本を離れる他に道は無いと考えていた時、大谷先生に声を掛けて戴き、昭和30年7月から助手として先生のご指導を受けることになったのです。丁度その頃、先生は蛍光灯が原因の放送周波数帯の雑音の研究を進めて居られ、教授に昇任されて、研究室を立ち上げようとしておられた時で、蛍光灯の性能改善に従事しており、文献調査のために教室の図書室に入りにしていた私を目に留めて戴いたのです。以来、先生のご退官までの21年間、研究者として、大学人として、さらに教授としてのあり方を親しくご指導戴いて来ました。先ず先生は、門下生に対して、厳父ではなく慈父そのものでし

た。威圧的な態度を示されたことは一度も無く、注意をされたことはあっても、叱られたことは誰も一度もなかったと思います。先生はまた、大変世話好きでした。中学校の同窓会をはじめ、大学のクラス会の世話をされ、洛友会の設立にも尽力され、松田長三郎先生の後を継いで、洛友会会長に就任され、ご病気になるまで会長として会の充実、発展に力を注がれました。若い時の先生の面目躍如たることは、フットワークの軽さと、まめさです。億劫がらずに出向かれ、面会され、誰にも誠実に接し、これによって纏れた関係を解きほぐし、難問をも解決し、分かれた意見があってもまとめ上げられたのです。相手の立場を尊重し良く意見を聞き、しかも筋を曲げることなく治められることは、普通の人では容易に出来ることではありません。柔よく剛を制すの諺のように、温和にして、しかも筋を通して、人を自らの意思で動いたように従わせることは、将に君子たる者の具えるべき最高の徳であり、私にとっても最高のお手本でありました。かような先生ですから、当然の事として、自然に組織の長に推され、数々の委員会の委員長を務められ、成果を挙げて来られました。先生の下なら部下は心から承服して働くことが出来ました。先生はまた、話が大変お上手で、宴席では、いつも先生の回りに人垣ができ、お宅に伺った時には、つい時

間が経つのを忘れてしまう有様でした。特に卒研の学生諸君には、大谷研ならではの思い出があるでしょう。コンパの時の楽しみの、かの有名な大谷コレクションです。先生の語り口と相まって、笑いの渦は中々解けませんでした。斯様なことは先生だからこそ出たことで、在原の業平、大谷刑部の末裔と自称され、清潔で潔白なお人柄であったからこそこのことで、我々下賤な者の真似の出来ることではありません。言葉には出されなかつたものの、奥様と深い信頼があつたからこそと拝察してました。研究室の運営面では、先生の寛容さと人を見る目的的確さです。他大学の先生に教えを請いに行くことに、ややもすれば不機嫌になる教授が多い中で先生は、むしろ、他の大学を訪問することを積極的

に勧められました。当時、プラズマの研究は、東北大、名大、電電公社武蔵野通研等が活発で、京大にはプラズマの研究の実績は無かつたので、学問上の師を全国に求めることが許されたのです。お蔭で、多くの知故を得ることが出来、計り知れない恩恵を得ることが出来たのです。また、当時の私は研究について、やる気は満々で、これと思えば直ぐに手を出す態度であつたので、先生はじつと見守っておられ、殆ど指示をされませんでした。その内に私は、先生の注意が無いのを恐れるようになり、全体をみて自ら軌道修正を図るこ

とが出来ようになりました。今にして思えば、人を見ての指導方法であつたと思ひ当たります。私が研究室を持つてからも合同で運営していたのも、先生の目の確かさを頼つてのことだったので。研究のテーマに関しては、常に一歩先を見通して、来るべき社会で必要とする課題に取り組んで来られました。昭和20年代後半では、家庭用電気機器の急速な普及に伴うラジオやテレビの受信障害の激増に備えてその防止方法の調査研究、30年代に入つてからは、直接発電、即ち、熱エネルギーから直接に電気エネルギーを取り出す研究に着手され、松田長三郎先生の後を継いで電気応用講座を担任されてからは、照明技術の分野で指導的役割を果たし、世界的にも活躍されました。これらは、先生のご経歴をご覧下さい。特に国際照明委員会での活躍は、京大を定年ご退官後のハイライトと言えましょう。

先生について強く心に残ることは、鋭い観察眼を持ちながら、優しく人に接し、無私の心で人の和に意を用い、問題が起きるのを未然に防ぐ努力を惜しまれなかつたことです。後でお話しを伺つて、そこまで心を配られたのかと感服したことが幾度もありました。かくあられたのは、敬虔なるクリスチャンであられたことと無関係ではなかつたとは思いますが、お生まれも育ちも申し分の無い恵まれた環境の先生が、威厳を持つてお

られたのは当然のことですが、寛容と奉仕と包容力を持たれたことに、ひらすら尊敬の念を禁じ得ません。「弟子は師を追い越してこそ師の恩に報いることができる」と言われております。弟子共も皆、一生懸命頑張れば学問研究の面では、或いは先生を凌ぐことが出来

恩師・大谷泰之先生を偲ぶ

松原覚衛 大谷研助手 助教
教授
現在、山口東京理科大学

本年の1月5日、恩師・大谷泰之先生のご逝去の知らせに、悲しみと寂しさのあまり言葉をうしなえました。何年振りかでお目にかかる笑顔の先生の遺影を前にして、このような形で先生を囲むことになったことに、やり場のない憤りを覚えました。

私は、昭和30年に福井大学工学部(電気工学科)を卒業後、大谷研の門下生の一人に加えていただきました。当時、大谷研には兄弟弟子の板谷良平先生がおられて、蛍光ランプの雑音電波の研究、その後、さらに進んでプラズマ中の波動現象の研究を精力的にやっておられました。これと並行して、大谷研究室では、エネルギー需要に因應するため、熱と電気、光と電気のエネルギ相互変換に関する研究がスタートしました。この対象は、高温の気体プラズマによる電磁流体発電(MHD)、セシウムプラズマによる熱電子発電(T

るかもしれないと努力して来ましたが、それとても足元にも及ばず、ましてや先生に備わった徳、先生の人間性には、とても先生の足元にも近寄れませんでした。先生、我々を暖かくお導き戴き有難うございました。どうか安らかに眠りください。

IC)、半導体のゼーベック効果による熱電発電(TE)の3つです。この中で、熱電子発電(TIC)は板谷先生、電磁流体発電(MHD)は故坂口忠雄先生と野口透先生が担当されました。私は、熱電発電(TE)の研究を分担させてもらいました。

この研究活動を通じて、大谷先生から手本となる多くのことを学びました。先生は、来るべき技術の動向と研究の方向性を的確に捕えて、自らの行動で私どもに範を示して下さいました。まだ、経験の浅い私にとって、先生の研究に対する鋭い洞察力とその行動力に感銘を受けました。このときの貴重な体験が、その後の研究活動に大いに役立っています。昭和30年代といいますが、14インチの白黒テレビがはじめた頃です。一般消費者にとっては、高価でとても手の届く商品ではなかった時代です。コピー機などの電

子機器はもちろんありません。それで、学会や研究会で発表する資料はすべて手書きでした。外国の専門誌などの文献複写は、カメラで必要なページを写してから印刷紙に焼付けました。当時は、どの研究室にも写真を現像焼き付けするための暗室があつて、プロ並みの腕前をもつ人もいました。

研究以外にも、大谷先生は、私どもに対して常に理解と暖かい愛情をもつて接して下さいました。おそらく板谷先生は、門下生を代表して、大谷先生のA面からのお話をされると思いますので、私はむしろB面から先生の想いでを語らせていただきたいと思っています。門下生なら誰もが知っていること、それは、先生が平安時代初期の歌人、在原業平(ありはらのなりひら)の子孫であるということです。皇族の出身で、「源氏物語」のモデルであるという説もあり、「伊勢物語」の作者とも伝えられています。このことが、なんの疑問もなく受け入れられるお人柄でした。

そのような大谷先生を慕って、多くの学生が大谷研での卒業研究を希望しました。もちろん、受け入れ可能な人数には限度がありましたので、大谷研に配属が決まった学生は鬼の首でもとったかのような喜びようでした。その主たる理由は、卒業研究の発表が終わったあとの追い出しコンパにあります。先生は、貴重な資料をもとに特有の話し術で生き生きとした課外授業をされました。この資料は、浮世

絵や版画などの文化財として大変貴重なものばかりでしたので、若い学生にとっては「目から鱗がおちる」ような感動があつたようです。しかし、この授業を受けてから、先生の試問にちゃんと答えられないことは、大谷研を卒業したとは認めてもらえない。それでも、何故か学生には大変人気がありました。

私どもが、先生と奥さまから受けたご恩は数えきれません。先生ご夫妻の優しさに甘えて、岩倉のお宅まで大勢でおしかけたことも度々でした。それだけでなく、先生の悩みごと、もめごとまで先生

恩師大谷泰之先生を偲ぶ

柴田 明 (昭40院卒)

尊敬する大谷泰之先生が他界されて既に2カ月余り、日を追う毎に先生の人間的な器の大きさと、教育研究に尽くされた偉大さに改めて感銘を受けると同時に、一抹の淋しさを痛感しています。

私は昭和38年地方国立大学から京大修士課程に入学し研究先として大谷研を希望し、初めて木造作り2階の先生の部屋に挨拶にお伺いしました。私にとって京大教授は神様のような存在であり大変緊張していました。背筋のびんとした先生は堂々と威厳がありました。が、話し方は実に柔和で滑らかであり、私の一身上の事情をも良く聞いて下さり誠に感動するとともに、先生のお人柄の暖かさ懐の

のお宅にもち込んで大変なご迷惑をかけたこともありました。どんな時でも、先生は寛大で人生の先輩としての貴重な助言を下さいました。先生は、われわれに見えない知識を蓄えることの重要性を教えて下さったのだと思います。これからも価値観のよりどころにしていきたいと思っております。感謝の気持ちでいっぱい입니다。先生、今までの親身なご指導とご教示、本当にありがとうございました。先生の教えは、いつまでも私どもの心の中に生きつづけます。どうぞ、ゆっくりとお休みください。

大きさを実感し若い未熟な私は大変感激しました。この出会いを40年近く経った今でも鮮明に記憶しています。昭和43年、先生のお世話で創立3年経過した福井高専に奉職し、以後30有余年に亘り先生のお背中を拝見させて頂きながら今日まで来ました。先生は昭和53年4月に、第2代校長木村毅一先生(京大名誉教授、原子核物理)から2年越しの強い要請を受け、福山大学教授より福井高専の第3代校長に就任され、既に電気関係も含め幅広い分野で先生の名は知れ渡つており、我々教官特に電気工学科にとって心強く大変な人が来られたと一種興奮を覚えました。先生が来

られた時は高専創立から既に10年経っており、世の中物質的繁栄とともに精神的荒廃が目立ちはじめ、高専においても例外でなく学生は次第に創立時の気迫に欠け安逸に流れてヤル気を失う風潮が漂っていました。このような時期に校長として着任された先生は、高専の活性化と一層の発展充実を期され、学生、教官と積極的に接触するとともに、ヤル気意識を目指し率先して全学的なモラルの向上を推進されました。また現存する殆どの施設・設備は先生の在任中に完成され、その中で野球場夜間照明施設は先生の専門設計資料と努力により実現され、地域住民に開放されて大いに活用されています。

学校の運営面においてもご苦労されました。各学科の事務職員制度を廃止し統一学科事務室を設置する際、事務官の定員削減問題が教育のサービス低下につながると教官サイドから猛反対を受けました。先生は先頭にたつて連日各学科の教官と話し合い最後には先生の誠実・真摯な説得に納得しました。この頃先生は心痛で夜もあまり寝付かれなかつたと後になって奥様から聞き、人の意見を良く聞き相手の立場に立ちながら全体を纏め上げる数少ない指導者と敬愛していた小生にとって、意外な先生的一面を感じるとともに半ばホットする気持ちがあったのを懐かしく思い出します。

を見たので、中の事は教務主事（副校長）にまかせて自分は対外的な仕事に専念したい」と、高専と地域社会との交流を積極的に推進され、地元企業との共同研究をはじめ県内経済界との定期的交流等に参加され、先生のお人柄ともあいまって地域の高専に対する評価が大いに高まり、これが先生在任中の創立20周年記念事業および電子情報工学科の新設に地域あげて応援頂いたことに結実したと感謝しています。大学編入学推薦に対する学生の面接・推薦状の執筆、事務処理及び必要不可欠な会議の出席等誠に多忙を極め、私など校長室でお会いできるのが数分と分刻みでした。ともかく先生の馬力には教官連中が追いまぐられ、気がつけば事が成就して目標が達成されていたという具合に、先生の不思議な魔力に乗せられて不愉快にならず、多くの教職員は先生の為なら何とかしたいと思つて後を追っかけてきたと思えます。

先生が高専へ赴任したのは65歳の時、昭和61年3月末に退任されるまで8年間の長きに亘って福井高専の発展に多大な貢献をされました。先生はこの8年間、週末京都の自宅と鯖江の官舎との間を奥様と共に往復して、福井は第二の故郷と申しておられました。昭和56年暮れから翌年正月にかけ積雪5mの雪が降り、校舎・体育館の屋根の損傷が危惧され、正月7日を明けても授業開始もできず学

生・教職員各自スコップを持参して、先生の陣頭指揮により1週間学生・教職員一丸となって除雪されたこと、今更ながら懐かしい思い出になりました。私は家内とこの8年間夏と暮れに官舎を訪問し先生と奥様にお会いし1時間のつもりが話しがはずんで2、3時間におよぶ誠に楽しい一時を過ごさせて頂きました。

先生が新年の挨拶、卒業式及び入学式等学生・教職員に常におつ

日本の電子部品製造業について

東京支部長 廣 豊 (昭33年卒)



私は現在電子部品製造業に従事しております。

電子部品製造業の製品は数えあげられない位多岐に亘っておりましてその代表的なものを挙げますと抵抗器やコンデンサ、水晶振動子、電子基板（旧称プリント配線板）、接続部品（通称コネクタ）

しゃつていた事、それは原点に立って回顧反省と見直しの「温故知新」、人との出会いを大切にす「二期一会」、そして「感謝の心」、「和信敬愛」、先生が亡くなられた後どうしてよいか指針を失った小生にとって、先生が残して下さったこの言葉を糧に生きていきたいと思っております。

先生長い間ありがとうございます。ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

額をあげているのであります。まさに塵も積れば山となる云う感じでありませぬ。

個々の製品につきましては、抵抗器千九百億円、コンデンサ五千四百億円、電子基板八千八百億円、接続部品一兆五千億円と云う生産高でありまして、一つの製品群としてはそんなに少ないものではありません。

又その生産数量は例えば抵抗器が二千四百億個、コンデンサが二千億個でありまして莫大な数量をこなしております。

二、生産形態と技術

大企業から小企業まで数多くの企業がこの生産に携っておりますが、一般的に云って中企業が多いのであります。しかもその各々に大層優れた企業が多くあり、単に日本において優れているのみではなく、世界的に見ても立派な企業が沢山あるのが特長です。

などがあります。何れも縁の下の力持ち的存在であり、皆様方にはなじみが薄いと思われまますのでこの機会にご紹介させていただきます。皆様方のご理解とご支援をいただきたいと思います。

一、生産額

小粒の集りでありますがまとまりますとかなりな生産金額になります。通産省の統計では「通信・電子装置の部品及び付属品」と分類されておりまして、平成十年の生産額は三兆三千億円に達しております。パソコンが含まれております電子計算機本体が三兆一千億円です。これに匹敵する生産金

コンデンサに例をとりますと、その主力であります電解コンデンサ、セラミックコンデンサの分野では技術・品質・生産量とも日本のメーカーが世界をリードしております。その生産拠点も日本以外の所で展開しているメーカーの数が今や多くなっております。研究開発や高級な製品は日本国内で、量産的な製品は海外でと云う形が出来上っております。

品質・技術面ではコンデンサの目下の課題は小形と低損失化ですが、これも日本勢が断然リードをしております。日本発のコンデ

ンサがありませんと今一世を風靡しております携帯用電話機もあのように小形軽量にはできませんし、ノート形パソコンも分厚くなくってしまいます。

コンデンサのような古くからある製品をどうやって小形化し低損失化するかと云うことであります。が、下記のように行われております。

一、新しい材料を使い誘電率を高くしたり、損失を減らす。最近では合成化学の進歩で色々面白い化合物が出来ております。機能性高分子材などを使うようになりました。

二、占積率を上げる。即ち材料を微粉化したり、厚みを薄くして体積を小さくする。

三、物理的につめる。これはやみくもにぎゅうぎゅう詰めこむ感で、モールドを工夫したり、端子をチップ化してパッケージングを小形化する。

又電子基板の分野でも同様のことが起っております。高密度化、多層化技術では日本は進んでおり、世界をリードしております。名称も従来はプリント配線板と呼ばれておりましたが発展しまして電子基板と称するようになりました。これはプリンシ配線板が急速に高密度化、小形化し、それに搭載する部品もパッケージングを極端に簡素化したチップだけの裸部品（ベアチップと呼びます）中心になったモジュール基板が出来てきました。最早プリント配線

板と云う名称がふさわしくなくなった製品が続々と生れて来たからであります。このモジュール基板の進歩は目覚しく、マイコンを搭載をするものを中心に日本は世界の生産基地となっております。

三、今後の展望

以上日本の電子部品産業につきましてコンデンサと電子基板を例にとりまして説明致しましたが、この他に抵抗器、水晶振動子、SAWフィルタ、マイクロホン等日本が進んでいて世界を牽引している電子部品は数多くあります。

その市場は日本は云うまでもなく、世界の市場もパソコン、携帯電話機を中心とする情報通信関連を始めとして大きい需要の伸びが予想されておりますので、私どもこれに従事する者にとりましては将来性があり、夢のある産業であること云うことが出来ます。

しかしながらこの業界にも油断の出来ない問題を抱えております。それは韓国、台湾勢を中心とする発展途上国の追い上げであります。将来は中国も力をつけて来ると予想されますし、単純な部品は価格的には追い抜かれた製品も出て来りました。これに対抗するために新製品新技術の開発、生産拠点の海外への展開など常に世界をリードして行く施策をとって来ましたが、今後も益々力を入れて行きました。「電子部品産業は日本」と云われているのに恥じないようにして行きたいと考えております。

教室だより

平成11年度電気電子工学科および工学研究科電気系専攻卒業生の進学就職状況

電気電子工学科長 荒木光彦
 電気工学専攻長 島崎眞昭
 電子物性工学専攻長 松重和美
 通信情報システム専攻長 佐藤 亨

本年度より、工学研究科から電子通信工学専攻がなくなりました。それに伴い、今年度は洛友会関連講座分野の卒業生の就職の御世話もつぎのように行いました。

- (1) 電気電子工学科卒業生および工学研究科の電気系専攻（電気工学専攻、電子物性工学専攻）：
電気電子工学科長が担当
- (2) エネルギー科学研究科の卒業生：
エネルギー科学の各専攻長他
- (3) 情報学研究科の卒業生：
情報学研究科の各専攻長他

ここでは(1)と(3)の範囲について御報告します。

結果は別表に記載した通りです。全般的傾向として博士進学者の減少が目立ちます。これは、大学をとりまく状況が厳しくなってきたという事実を反映したものではないかと考えられますが残念なことです。

企業への就職につきましては、不況の大嵐にもかかわらず、当電気系卒業生は一般的には「引っ張

りだこ」状態が続いております。これも卒業生の皆様の実績ゆえと深く感謝しております。ただし、残念ながら次のような状況が生じていることも御報告せねばなりません。すなわち、極くわずかですが（ほとんどが長期留年生です）、何回も就職面接で不合格となった学生がいたことです。社会常識がそれ程豊かでない私ども教官が見

て「これは不合格になるのも止むを得ない」と感じるわけですが、本人にそれを説明してもなかなか納得がいかないようです。さらに「社会的規範を守る習慣が出来ていない（もしくはその意志がないのではないか）」と思われる卒業見込者も見受けられました。そのような学生について推薦文を書くのは非常にためらわれるところで

平成11年度卒業生進学就職状況

(電気電子工学科、工学研究科電気工学専攻、同電子物性工学専攻、情報学研究科知能情報学専攻、同システム科学専攻、同通信情報システム専攻)

修了、卒業者数	修士	学部	進 学・就 職 先
107	134		
進 学	3		京大大学院博士課程工学研究科電気系
	11		京大大学院博士課程情報学研究科
		53	京大大学院修士課程工学研究科電気系
		47	京大大学院修士課程情報学研究科
		8	京大大学院修士課程エネルギー科学研究科
	14	108	
官 公 庁 等 電 気 関 連	3	2	運輸省、特許庁、警察庁、大阪府
	52	8	東芝、三菱電機、富士通、シャープ、NEC、日立製作所 松下電器産業、日本IBM、松下通信、ソニー、沖電気、オムロン デンソー、ローム、明電舎、住友電工、村田製作所、キャノン フジテック、古河電工、松下電工、日本ヒューレットパッカード 日本テキサスインスツルメンツ
通信・放送	15	1	NTTコミュニケーションウェア、NTTデータ、NTT移動通信網 NTT西日本、日本テレコム、J-Phone関西
電力・ガス	10	4	関西電力、東京電力、中部電力、中国電力、大阪ガス
機械・自動車学 化	6	4	トヨタ自動車、三菱重工、川崎重工、島津製作所、堀場製作所 京都製作所、東レ
ソ フ ト		1	カプコン
放 送	1	1	NHK、毎日放送
金融・商社等	3	2	三菱商事、三井物産、三菱信託、住友商事、アンダーセンコンサル タント
鉄 道 関 連	1		鉄道総合技術研究所
未 定	1	2	
帰 国		1	

ありましたが、学科長の責務としてとりあえずは推薦させていただきました。このあたりを次年度からは見直すべきではないか、とも考えております。また、より根本的問題として「なぜそのような卒業生が出てしまうのか」というところも問い直さねばなりません。我々の教育のあり方を反省すべきは言を待ちませんが、現状は「大学での教育が与えうる影響の範囲を越えている」のではないかと懸念しております。

いろいろと暗い話題を並べてしまいました。卒業生の大多数は、従来通り技術者としての気概を十

二分以内に込めて巣立っていったものと確信しております。各界において、よろしく育んでいただくよう御願いたします。

教官の異動

平成12年3月31日付けで停年退職される教官は次の方々です。

○上田院亮教授

公立はこだて未来大学教授に就任

○山田 公教授

姫路工業大学教授に就任

○多田博一講師

岡崎国立共同研究機構分子科学研究所助教に就任

上田院亮教授退官記念パーティのお知らせ

既報のとおり、平成12年3月31日付けで定年退職され、左記の通り退官記念パーティが行われますので、ご案内いたします。

日時 平成12年5月27日(土)午後3時より5時まで

場所 京大会館10号室 〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9

TEL) 075-751-8311

会費 5千円(ご同伴者3千円)(ティーパーティ形式で行わせていただきます)

連絡先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院工学研究科電気工学専攻
引原 隆士 (TEL 075-753-5369)

Email:kikihara@kuee.kyoto-u.ac.jp

会員寄稿

戦中派の学生生活(IX)

会長 近藤文治(昭18年卒)

(ワ)教育の臨戦体制・学徒出陣

昭和18年10月、遂に来るべきものが来た。「教育に関する戦時非常措置方策」の閣議決定である。

その骨子は

- (1) 徴兵猶予の停止
- (2) 理工系学徒の入営延期
- (3) 理工系学校の拡充
- (4) 文科系学校の統合整備
- (5) 徴用・女子動員の強化

この措置により、理工系(理、工、医、農)学生には従来通り入営延期の恩典が認められたが、20才以上の文系学生は、全国一斉に

実施された兵隊検査を受け、甲種及び第1乙種合格者は現役入隊し、第2乙種及び第3乙種合格者は臨時召集により同時に入隊することになった。世に言う「学徒出陣」である。

これらの学生は本来であれば、昭和19年9月あるいはそれ以降に卒業する筈であったが、戦局の急迫はそれを許さず、学業を半ばで放棄し戦場に向かうことになったのである。戦争という異常事態の成すところとは言え、当時の学生の心情を思うと、今でも胸が締め付けられる思いがする。しかし私は申し訳ないが、大学院特別研究生として在学中の故をもって、今まで通り入営は延期され、これまでも変わらぬ生活を続けることができた。運の強さに大いに感謝しなければならぬと思った。

学徒出陣式が挙行されたのは10月21日、氷雨降りしきる明治神宮競技場に数万の学生を集めて行われた。この日学徒兵の入営状況を視察した東条首相は、「死を鴻毛の軽きにおきて悠久の大儀に生き、もって無窮の皇恩に答え奉らんとす。これまさに青史にその例を見ざるところにして皇国臣民の榮譽、男子の本懐何ものかこれに過ぎるものあらんや。…」

と訓示、激励した。いま読めば何か空々しい感じがしないこともないが、当時、私の心を揺さぶる名文として記憶に残っている。一方、京都帝国大学にあっては、法学部、文学部、経済学部の学生

の8割が入営することになった。11月20日、出陣学生の壮行式は午前8時30分から農学部グラウンドで挙行された。席上羽田総長は告辞を述べ、「諸子の召されるのは、目下一日も忽にすべからざる局面において、国家が諸子の上に重く寄託し、深く信倚するが故であつて、平時に当たって、世の指導者として諸子の力にまつところが、国民の総力を挙げて軍国のことにつくすべき時局下において、さらに強く戦陣の裡に求められるの外ならぬのである。…」

さらば、顧みなくて雄々しく征給え。神かけて諸子の武運長久を祈る。」と結んでいる。

一方、京都帝国大学新聞は当日の式の様を次のように報じている。「昭和18年11月20日、さらば思い出の時計台よ、この日若き学徒は大君のため召されて秋深き学園を征で立つ。顧みれば汝々として勉めし拾有余年の学業生活を今一歩にして征で立つ出陣学徒は、日出づる国の誇りを胸に、手には正義の刃をとり、祖国日本の隆替を双肩に荷いながらなつかしき学び舎の門を去る。ああ、出陣学徒の胸の裡をかけめぐるものは征野の雄叫び以外のなものでもない、生きたし生けるものみな大君のみにくさに召され征でゆくとき、学園より召され祖国の歓呼に送られ歩武堂々学徒は征く…」

残った理工系学生も昭和19年になると、勤労動員で軍需工場に駆

り出されるようになり、学校教練どころの騒ぎではなくなった。更に昭和20年3月には、本土戦場化に対応する決戦施策として、昭和20年4月1日より向こう1ヶ年間、国民学校(小学校の戦時版)初等科を除き、学校の授業を停止することになった。初等科(尋常科-低学年)は危険を避けて田舎へ疎開して合宿生活を送ることにした。いわゆる学童疎開である。児童を含めて臨戦体制に組み替えられたのである。

(力)終戦直前

我々が卒業した昭和18年の前半はまだまだ戦局に余裕があった。しかし卒業後は俄然様相は一変し、19年6月にはサイパン島は米軍の手に陥ち、7月にはビルマインパール作戦に大敗し、兵員や兵器に大きな痛手を蒙った。またサイパン島を航空基地にして本土の本格的な空襲が始まった。こうした戦局の急迫に応じて、国内にあっては、各種の非常措置が次々に講じられるようになった。生活物資の統制・配給制度の強化、国民徴用令の施行、召集の激化等々、一億国民総決戦の体制を急激に整えるための手が次々に打たれた。

更に、昭和20年に入るや、2月にはフィリッピンがアメリカ軍に奪回され、3月9日の東京大空襲は、東京の下町全域を一夜にして焦土と化し、続いて大阪も14日の大空襲で壊滅的打撃を受けた。その他、日本全土の主要都市が次々に空襲で壊滅した。

更に4月1日、米軍は沖縄本島に上陸。約10万人の将兵と同数の一般住民の戦死者を出した激烈な戦闘の後、6月下旬には沖縄本島が陥落した。この戦いで、日本海軍が不沈戦艦として誇っていた巨大戦艦「大和」を、本土決戦に備えて温存していたが、ここが正念場と考え投入した。しかし沖縄本島に達する前に敢えなく撃沈され、米軍の上陸作戦を阻止するどころか、一矢も報いることなく海の藻屑と消えた。この作戦は沖縄決戦の最後の望みを託した作戦で、それが全くの失敗に終わったことを知った国民の失望は大きかった。

この頃になると、日本は既に組織的な戦闘能力を失っていたが、政府は、焦土と化した内地を舞台に、本土決戦を叫び国民を鼓舞した。しかし国民の士気は今一つ盛り上がりながらなかった。アメリカの膨大な物量作戦に対して、大和魂と竹槍だけではどうにもならないとをよく知っていた。だからと言って進んで降伏を口にする気持ちはなかった。

長い歴史の中で日本は未だ負けたことは無いと言う誇りを、徹底的に教え込まれ、我々の時代に歴史に汚点を残すようなことは許されないと考えていた。そのため死んでも仕方がないと言うのが、一般的な国民の気持ちであった。勝つことはできないとは知りつつも、降伏はしたくないと、最後の死闘が近づくの成す術もなく待っていたのである。(次号につづく)

名駅南地域 冷暖房の概要

遠藤 茂 (昭27年卒)

JR名古屋駅の南側に線路に沿った地域(名駅一丁目・名駅南一丁目地内)には、名古屋鉄道のビルを主体に、近鉄ビル、住友ビル、日本生命ビル等が林立している。

これ等の建物は、夫々建築後20〜40年経過しており、ボイラ・冷凍機等の空調熱源設備の更新計画が進められて来た。しかも地球環境問題から、脱フロン・CO₂削減を配慮したものにすることが必要です。関係者協議の結果、曲折はありましたが、東邦ガス(株)が熱供給事業者となり、各ビルが冷・温熱の供給を受ける事になりました。平成8年7月に事業が認可になり、平成10年12月から一部の熱供給が開始されました。

① プラントビル

区域内に設置したいという事で、南端の下広井通に面した誘導車路の出入口(路線バス、乗用車の為)の上にビルを作る事になった。バスの出入を配慮して、径間約37mの一種の橋梁の様な人工地盤を造り、その上にプラントを収容するビルを建てた。一階の車路部分や、大型熱源機器階がある事から、5階建ではあるが軒高は約31mあり、9階建の事務所ビルと同じ高さで、更に屋上には冷却塔が乗っており、これを隠す為の高

さ15mのフェンスが立っている。(この外面は名鉄の広告塔に利用)

② 地域導管

冷用水に750mmφ×2本、蒸気用に(行き)750mmφ、(還り)80mmφ各一本と、他に予備小径配管が数本あるが、これらの「導管」と称する配管が、細長い地域を縦断して、約700m配管されている。問題はこの地域のほぼ中央部分を幹線道路が横断している事である。(名古屋の中央を東西に走っている

広小路通の延長線上にある太閤通である。)交通量の多い道路なので、検討の結果地下案になった。しかも公共埋設物の下を通す為、地下約5mを通る訳である。地上交通に支障のない様「推進工法」が採用された。シールド管体は前述の導管を収容する為、内径が2mのものになった。この部分の工程は、調査・準備作業に約10ヶ月、推進工事に約4ヶ月を要した。

③ 各ビルの受入施設

各ビルでは既存の地下階内に、太い主導管の配管スペースを確保すると共に、平成10年の冷房シーズンにボイラの撤去及び受入ヘッダの整備を行い、平成10年12月の温熱供給と共に暖房運転を始めた。以後冷凍機の撤去・配管の整備を行い、平成11年4月に冷水を受入れ冷房運転に入った。

各ビルの空調熱源機器室は不要になり、他に転用出来る訳であるが、後方部門の施設にしか利用出来ないもので、順送り転用する事により何とか有効利用する事が出来

た。夫々のビルで千m²程度の面積を生み出す事が出来た様である。

④ 施設概要

- プラントビル(名鉄所有)
- 地下一階・地上5階・塔屋2階
- 延床面積 4304m²
- 地域エネルギー センタ
- ・事業主体…東邦ガス(株)
- ・事業開始…平成10年12月1日
- ・主要機器

- (a) 蒸気二重効用吸収式冷凍機
- (4基) 7300RT.
- (b) 低公害冷媒ターボ冷凍機
- (2基) 1200RT.
- (c) 蒸気ボイラ(4基) 49t/h
- (d) 排熱ボイラ(2基) 10t/h
- (e) ガスタービン発電機
- (2基) 3000KW
- ・熱源 中圧ガス(13A)

⑤ 熱供給対象ビル(延床面積)

- 名鉄ビル 約66千m²
- 近鉄ビル 約20千m²
- 名鉄バスターミナルビル 約90千m²
- 住友銀行ビル 約36千m²
- 日本生命ビル 約24千m²
- 合 計 約237千m²
- 以上

数値等角写像と電気磁気学

天野 要 (昭46年卒)

等角写像は関数論の基本的な問題の一つで、物理学や工学に広く応用されます。しかし、その写像

関数を初等関数で記述できる場合は限られています。多くの場合、与えられた条件を満たす写像を求める問題は数値計算によらなければなりません。このような理由で等角写像の数値計算法すなわち数値等角写像の方法は数値解析の課題の一つとして研究されています。

私は愛媛大学工学部情報工学科に勤務し、情報数学関連の科目を担当しながら、このような数値等角写像の方法を研究しています。その方法は代用電荷法(Charge Simulation Method)という電気

工学の分野で発展したポテンシャル問題の数値解法を複素関数に適用したものです。代用電荷法の原理は簡単です。二次元ラプラス方程式の場合には、解を問題の領域の外部に配置された仮想的な点電荷によるポテンシャルの一次結合で表現し、未定係数である電荷の大きさを境界上に配置された拘束点上で境界条件を満たすように定めます。電荷点と拘束点の数が同じであれば、数値計算上は連立一次方程式を解く問題になります。

この簡単な方法は拘束点と電荷点を「適当に」配置すると非常に高い精度の近似解を与えます。一方、等角写像の問題は一对の共役な調和関数を求める問題に帰着することが出来ますから、この共役調和関数を複素対数ポテンシャルの一次結合で近似して簡単かつ高精度な数値等角写像の方法を構成することが出来ます。

学部、修士課程は前田憲一先生、木村磐根先生の研究室に所属し、津田孝夫先生、深尾昌一郎先生のご指導で、宇宙プラズマ中に生じる「磁力線の再結合」現象の計算機シミュレーションに取り組んでいました。その後、北海道大学に移られた津田先生の研究室で博士課程の大学院生として過ごしました。大学院修了後、北海道大学大型計算機センターに助手として勤務し、ここでは学術データベースや大学間計算機ネットワーク（N1ネットワーク）の運用・開発等を担当しました。札幌で12年を過ごした後、愛媛大学工学部応用数学教室（その後、改組で現在の情報工学科に統合されました）に移りました。不惑を目前に数学の教員に転身しなければならぬときは大変でした。

愛媛大学の数学関係者の小さな研究会で代用電荷法に関する講演を聞いたことが研究の出発点になりました。直に、電荷配置の方法と期待していた等角写像が応用数学の重要な問題であることを知り、逆に代用電荷法を適用すればこの問題が簡単かつ高速度に計算できることに気がきました。以来、十余年にわたってこの研究を続けることになりました。思いがけず、情報処理学会や日本応用数学会から論文賞を頂戴するという幸運にも恵まれました。

代用電荷法の原理は、計算機を使用して近似解を求めるという点では異なりますが、仮想的な電荷

を配置して境界条件を満たすようにその大きさを定めるという点では「鏡像法」そのものです。清野武先生の電気磁気学の講義でポテンシャル問題の特殊解法としてこれを学びました。京都、札幌、松山と風が吹かれる木の葉のような研究生活を続けているうちに、四半世紀以前の分野に舞い戻った、という感じがしなくてもありません。しかし、その間に私が学んだほとんどの先生方は京都大学を去られました。四半世紀が過ぎていくわけですから当然ですが、電気系教室に在籍する先輩、友人、知人も少なくなりました。時々北部構内の数理解析研究所を訪れますが、少しさびしい気がします。

以下は、清野先生と津田先生の授業中の思い出です。30年経った今も強く印象に残っています。

清野先生の電気磁気学の授業中に、M君が立ち上がって、「先生の講義は教科書と同じ内容で面白くありません。」と発言しました。先生の応答は「この本は私が講義のために書きました。別の本を教科書にすれば、講義の内容は教科書と全く異なったものになります。」というものでした。

この時の教科書であった電気磁気学I（増補版、オーム社、昭和44年発行）はいまだに研究上の参考書として役立っています。また津田先生の授業中に、同じM君が今度「講義の前に自分が何を研究してきたか話して下さい。」と要請しました。先生はためらいが

ちに研究紹介をされた後、M君の方を向いて、「ところで、あなたは何をしてこられましたか。」とおっしゃいました。

私自身は講義中にこのような出来事に遭遇したことはありません。清野先生や津田先生と同じような立場に立たされたら何と答えたいのでしょうか。

ヨーロッパ滞在記

麻島 健（平3年卒）

主にフランスでの滞在で気に入った物事・聞いた事等を書きます。

ドイツで暖めて飲むワインがある。他にもウィーンのクリスマスポンチという暖かいお酒がある。共にホットレモンやホットカルピスのように、飲みやすく体が暖まる。冬はビールは寒いし、日本酒や焼酎はきついという人にも丁度よい。冬のゴルフの途中の茶店で体を暖めるにもいいかも。

エスプレッソという高圧力の蒸気で抽出する少量のコーヒーがある。非常に味は濃い、イタリヤ人いわく、短時間で抽出するため、カフェインは普通のコーヒーに比べて逆に少なく、夜飲んでもOK。炭酸水。ビールや炭酸飲料が好きだが毎日飲むのは避けたい。一方食事や飲むすっきりとした物が欲しいという私にはぴったり。日本もレストラン等への普及に期

待。

外食は、おいしく量も多いが高い。一般のフランス人も、仏料理フルコースを食べることは少なく、日頃家で食事して節約するらしい。

専門店があるほど、冷凍食品は豊富。なかでもエスカルゴはお気に入りである。カタツムリと聞くに食欲がわかないが、見た目はただの巻き貝と同じ。バターやニンニクで味付けしてあり絶品。日本でも手軽な仏料理としていかが？。

また、日本というところ、鉄人「道場六三郎」の料理シリーズといったような、本格的冷凍食品もある。刺身等魚貝類を生で食べる習慣は少ないが、唯一かきは生で食べる。種類も豊富で新鮮。但し、店によっては食あたりも有りご用心。

昼食の後のデザートでケーキやアイスを食べる習慣には大満足。住居に関し、一番関心したのは、セントラルヒーティング。家中、廊下から浴室まで、一日中暖かい。但し床下等パイプが多く、水漏れ等、新築でも故障が多いのが難点。空き巣に入られた時は、警察に届ける前に、更に鍵を壊すらしい。鍵を壊さずに入られるのは、住人にも責任有りと思われるからとか。

ゴミは毎日回収する。但しゴミ回収車が機械的に回収できる様設計した共通の大きなプラスチックゴミ容器を利用する。またアパー

トでは上階からでもダストシュューターで地下のゴミ置に捨てられる。

床屋で、はさみでなくナイフで髪を切った。切口が滑らかならしい。モデルにでもなった気分がした。

フランスでは郵便局・銀行のカードで、買物・支払いができる。名前はカルト・プルー。暗唱番号を、他人から見えないボタンで押すだけ。サインも不要。即口座から引き落とす。日本でもデビットカードという名称で導入開始する。

24時間の銀行のキャッシュコーナーが、パリ市内は至る所にあり、現金の引出には苦勞しない。

洗濯機の見え目は、乾燥機と同じで、少量の水で洗う。時間はかかるが乾燥までできる。日本でも働く女性用に、普及するかも。

電気製品は日本より高い印象がある。また日本車が関税のためベントツやBMWに比べ割安感がない。EU圏外に対し保護的と感じた。

携帯電話は、日本のような薄型は信頼感がいらず、少し古く重たいタイプの方が売れるらしい。

欧州の携帯電話はロシアも含めて国外でも使える。次世代の日本の携帯電話が国外で使える様期待。

ロンドンには競争で様々な国際電話会社があった。国際電話をそこで安くかけられる電話店もある。

トでは上階からでもダストシュューターで地下のゴミ置に捨てられる。

床屋で、はさみでなくナイフで髪を切った。切口が滑らかならしい。モデルにでもなった気分がした。

フランスでは郵便局・銀行のカードで、買物・支払いができる。名前はカルト・プルー。暗唱番号を、他人から見えないボタンで押すだけ。サインも不要。即口座から引き落とす。日本でもデビットカードという名称で導入開始する。

24時間の銀行のキャッシュコーナーが、パリ市内は至る所にあり、現金の引出には苦勞しない。

洗濯機の見え目は、乾燥機と同じで、少量の水で洗う。時間はかかるが乾燥までできる。日本でも働く女性用に、普及するかも。

電気製品は日本より高い印象がある。また日本車が関税のためベントツやBMWに比べ割安感がない。EU圏外に対し保護的と感じた。

携帯電話は、日本のような薄型は信頼感がいらず、少し古く重たいタイプの方が売れるらしい。

欧州の携帯電話はロシアも含めて国外でも使える。次世代の日本の携帯電話が国外で使える様期待。

ロンドンには競争で様々な国際電話会社があった。国際電話をそこで安くかけられる電話店もある。

フランスのTGV(高速鉄道)は現在ロンドン、ベルギー、ドイツ(ケルン)、スイス(ジュネーブ)へ乗り入れ、仏国内含め移動時間は短縮。ロンドン・パリ間は3時間で、東京大阪間と同じ位。私の会った欧州人は、英国人以外も皆英語がうまかった。日本人とのギャップは大きいと感じた。一方欧州の会社でもEメールは普及しており、便利であった。欧州と日本との距離は縮まるだろう。

事務局だより

本部総会のお知らせ

平成12年度、洛友会本部総会は左記のとおり行ないますので、会員の皆様方のご出席をお待ち申し上げます。

日 時 平成12年6月3日(土)

午後

(関西支部総会の後)

場 所 天王寺、都ホテル新館
 なお、当日は関西支部総会が行われた後に本部総会となります。関西支部の皆様には別途ご案内があります。

事務局

支部総会の開催について

平成12年度の各支部の総会は次の日程で開催されます。

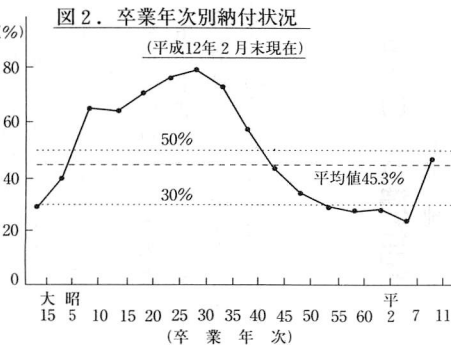
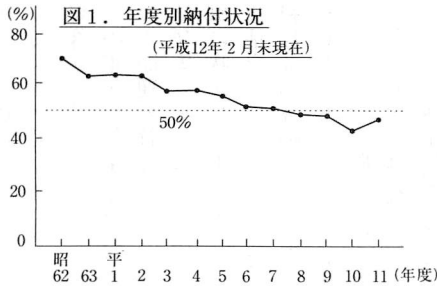
開催場所および時間などについては、各支部の幹事の方より別途ご案内があります。

- 北海道支部 5月6日(土)
 - 九州支部 5月12日(金)
 - 中国支部 5月19日(金)
 - 東京支部 5月28日(日)
 - 四国支部 6月2日(金)
 - 関西支部 6月3日(土)
- (本部総会と合同開催)
 中部支部 6月17日(土)
 北陸支部は今年度、開催いたしません。

事務局

平成11年度会費納付状況について

平成11年度も年度末を迎え、会計事務も決算期となりました。本年も皆様のご協力には厚くお礼を申し上げます。毎年この時期にはその年度の会費納付状況についてご報告しております。11年度は以下のとおりです。



平成12年2月末日現在の会員数(A)は6304名で、平成11年4月以降平成12年2月末日までに会費を納付していただいた会員数(B)は2861名でした。納付率(B/A×100)は45.3%であり、図1グラフに納付状況の推移を見ていただいております。平成8年度以後は50%を割り込んでおります。

また、図2に示しましたが、卒業年次別の納付率は昭26年〜30年の80.9%を最高に以後順次下降し、昭41年以降では50%を切っています。とくに、昭56年以降の若い会員の納付率は30%を下回り、会員数も多い関係で全体の納付率を引下げる結果となっております。会費の納付率を向上させることについては、昨年の役員会でもいろいろ議論が交されましたが、とりわけ各会員のご協力に頼らざるをえないのが現状です。一部関西支部では関西支部会員

にのみ、支部長名で会費納入に関するお願い文を折込み向上にご協力いただきました。更に、K社では昨年10月現在の納付率は46%でありましたが、未納者をリストアップし個別に振込用紙を配布していただいた結果、平成11年度は95.7%の高い納付率となりました。ご紹介し、ご参考になれば幸いです。

事務局

訂正

前号(188号)、10面3段目の写真の説明の中で、「中段左より小原、井上、飯田、舟田、林、…」となっておりませんが、「飯田」の後「舟田」の前に「浜田」が脱落しておりました。訂正いたします。

編集後記

本号は巻頭記載のとおり、大谷泰之前会長のご逝去にともしない、故人縁の深い方々からの追悼文を戴き合併号といたしました。そのために発行が遅れましたことをお詫びします。

20世紀最後の春は例年より少し遅い桜の開花となりました。京都大学では3月23・24日の両

日に卒業式が行われ、新しい会員を迎えて洛友会も益々隆盛です。これからは青葉の季節に移行しますが、産業界では景気の回復にやや明るさが見えはじめたように思われます。

松本 博記

訃報

昭3	青山政次	11	10	20
昭7	吉岡俊男	10	11	27
昭11	黒田麟八郎	11	12	14
昭12	増田 寿	12	1	7
昭13	大谷泰之	12	1	5
昭14	大塚忠一	10	11	4
講昭14	藤村茂夫	12	2	15
昭16	安藤安二	11	12	15
昭16	伊藤文夫	11	1	28
昭16	今水康治	11	4	9
昭16	尾繩貞男	9	2	4
昭16	西村重志	11	9	
昭17	野田忠弘	11	11	17
昭17	今西久弥	11	3	10
昭20	磯野 寿	10	5	8
昭22	田付茂男	11	2	26
昭22	本山藤夫	11	11	
昭26	長谷川和之	11	10	12
昭28	福田克雄	11	5	5
昭31	船川 繁	11	12	27
昭47	小山謙二	12	3	27
昭51	山上 明	11	5	21

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。